

Citation: Meher S, Duley L. Rest during pregnancy for preventing pre-eclampsia and its complications in women with normal blood pressure. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2006, Issue 2. Art. No.: CD005939. DOI: 10.1002/14651858.CD005939.

CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 17 January 2010

Clib issue No.; N/U: 2010 issue 2; Update

背景: 子癇前症や妊娠性高血圧のリスクを有する女性は時に安静にするよう助言される。安静が全体では有害であるよりも有益であるかどうかは不明である。

目的: 血圧が正常な妊婦において、子癇前症とその合併症の予防について、妊娠中の安静や身体活動を減らすことによる効果を評価する。

検索戦略: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2010年1月)を検索した。

選択基準: 血圧が正常な妊婦において、子癇前症とその合併症を予防するために安静にすることや身体活動を減らすことの効果を評価しているランダム化試験を採択した。

データ収集と分析: 2人のレビューアが独自に組み入れのために試験を選択し、データを抽出した。データの正確性を期すためにダブルチェックした。

主な結果: 質が不確実な2件の小規模試験(女性106例)を選択した。両試験とも、妊娠期間28~32週の子癇前症リスクが中程度である単胎妊娠の女性を対象としていた。正常活動と比較して、1日4~6時間の安静により子癇前症の相対リスクは統計学的に有意に低下したが(1件の試験、女性32例;相対リスク(RR)0.05、95%信頼区間(CI)0.00~0.83)、妊娠性高血圧の相対リスクは低下しなかった(RR 0.25、95%CI 0.03~2.00)。1日30分の安静+栄養素補充は子癇前症のリスク低下と関連し(1件の試験、女性74例;RR 0.13、95%CI 0.03~0.51)、妊娠性高血圧のリスクの低下とも関連した(RR 0.15、95%CI 0.04~0.63)。帝王切開に対する影響は不明であった(RR 0.82、95%CI 0.48~1.41)。他のアウトカムは報告されなかった。

レビューアの結論: 報告された効果は、真の効果というよりもバイアスやランダム誤差を反映している可能性があるが、栄養素補充がありとなしの毎日の安静は、血圧が正常な妊婦に対して、子癇前症のリスクを低下させると思われる。周産期死亡率および罹患率、母体罹患率、妊婦の意見、有害作用、および費用といったアウトカムについての情報はない。子癇前症とその合併症を予防するために、妊婦に対して安静にして身体活動を減らすことを勧告することを支持するには現在のエビデンスでは不十分である。それゆえ、妊娠中安静にするかどうかは個人の選択に任せるべきである。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日: 2010年11月18日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。